

会議名	令和 7 年度 第 1 回 板橋区産業活性化推進会議
開催日時	令和 7 年 6 月 1 1 日（水） 1 4 時 0 0 分から 1 6 時 0 0 分まで
開催場所	板橋区役所 災害対策室
出席者	14 人 〔委員〕 山田 敏之氏 中西 穂高氏 豊城 勇一氏 岩月 宏昌氏 木村 博之氏 大矢根 康隆氏 梶山 祐美子氏 岡田 晴一郎氏 家田 彩子氏 〔区側出席者〕 藤原課長 山川課長 平田課長 木内支所長 〔産業振興公社〕 五十嵐事務局長
会議の公開（傍聴）	<u>公開（傍聴できる）</u>
傍聴者数	0 人
議 題	(1) 板橋区産業振興事業計画 2025 進捗 (2) 板橋区産業振興構想 2035 策定状況 (3) 意見交換
配 布 資 料	1. 次第 2. 次期板橋区産業振興構想の策定について 3. 板橋区産業振興事業計画 2025 進捗状況 4. 板橋区産業振興構想 2035 骨子案（概要版） 5. 板橋区産業振興構想 2035 骨子案
所 管 課	産業経済部 産業振興課 産業支援係 （ 3 5 7 9 － 2 1 7 2 ）

以下、議事要点

●確認及び紹介

▷産業振興課長

配布資料の確認、関係課長の紹介。

●会長・副会長の互選

互選により選出。

●会議の公開について

▷会長

付属機関等の会議の公開に関する基準に基づき公開されることを説明。

●議題（１）板橋区産業振興事業計画２０２５進捗

▷産業振興課長

資料「次期板橋区産業振興構想の策定について」及び「板橋区産業振興事業計画２０２５進捗状況のご報告」に基づき説明。

—質疑応答—

（委員）

１５ページ「事業承継相談」について、相談後にどうなったのか、傾向などを把握しているか。承継できなかったケースがあれば、次につなげる施策が必要なのではないかと考えた。

（事務局）

実際の結果までの後追いをしてはいないが、相談があったものは、他専門家や融資や補助金などにつなげている。

（委員）

様々な事業があり、事業者のためとなっていると感じた。９ページ「女性起業入門セミナー」について、いま創業セミナーなどに女性が多く参加する傾向がある。もっとPRを十分にするとさらに多くの方が参加されると思う。

（事務局）

ニーズに合わせて事業を検討、調整していく。

（委員）

大学のゼミで事業計画策定、板橋のいっぴん販売なども行うが、近年女性が多い傾向があり、エネルギーを感じる。

（事務局）

説明が漏れていたが、区の産業発展の大きなブランドとして産業ミュージアムを作っていく準備を行っている。そのような取り組みを行っていることも申し添える。

（委員）

事業承継や人手不足による廃業が近年増加している。価格転嫁・賃金アップができないことが一因と考える。エッセンシャルワーカー、社会インフラへのサポートも区の財産として必要だと感じる。

(事務局)

事業承継については信頼関係がないと相談すらできないなか、区内事業者同士のつながりも希薄だが、つながりを求める声をこれまでの検討会や事業者から複数伺っている。信頼できる関係構築が必要と認識しているので、次期構想にはしっかりと盛り込み具体化していく考え。非常に繊細な事業承継という課題に対し、行政としてできることを模索している。

(委員)

金融機関として、スタートアップ、創業や事業承継の様々な相談を受けている。板橋を盛り上げていくために、創業者の体験談など含めて、区と金融機関でタイアップして連携ができると区産業全体にとって良いと考える。

(委員)

実績の数字(数値)では順調であるものの、課題があるなど、数値からは見えない部分を紹介してもらえると、強み弱みが見えると思う。また、起業入門セミナー受講後に、実際起業した数値が成果としてわかるとよい。

(事務局)

実際の創業数の把握などはなかなか難しいが、相談内容に応じてその次につながる必要な施策を紹介し支援している。

(委員)

事業から出た課題を次につなげることが行政の仕事と思う。1件1社に向き合ってフォローお願いしたい。

(委員)

金融庁が女性起業家の調査を行っており、女性起業家の資金調達は難航するなどデータもある。

(委員)

数値として「実施・開催したこと」ではなく、実際行った結果の成果を次期構想以降はしっかり示してほしい。有効な施策なのかを評価できる仕組みをお願いしたい。

また、事業No.28「板橋産業データベースの再構築」が「順調」とあるが何をもって順調なのか。

(事務局)

基本的にはデータベースが稼働していることをもって「順調」としている。活用方法としては、企業サポートコーディネーターが対応した案件を登録・蓄積している内部管理の要素と外部向けに公開している企業データベースがある。外部向けの起業データベースが実際に取引につながるなどの成果につながっているかという点と厳しい状況。「順調」といっても課題が多いのが現状である。

(事務局)

成果の取り方、指標に行政も課題を感じている。活動した数値がそのまま成果指標になると考えていない。〇回実施した、〇人集まったで「達成」と評価するのではない測り方を考えている。

●議題(2) 板橋区産業振興構想2035策定状況

▷産業振興課長・事務局

資料「板橋区産業振興構想 2035 骨子案（概要版）」及び「板橋区産業振興構想 2035 骨子案（本編）」に基づき説明。本日は成果指標の考え方についてご議論いただくことをゴールと考えている。

—質疑応答—

（委員）

成果指標について、基本的に指標はアンケートをとって定性的なデータを定量化していくのか、従来どおりの定量数値も併せての評価となるか。

（事務局）

アンケートをベースにしつつ、事業者が集まる機会をもって目に見えるかたちでしっかり図っていくことを想定している。

（委員）

その場合、どういうメンバーに聞くのか、また区外からの認知はどう測るのか。

（事務局）

ターゲットの設定は、今後、取得方法の設計の検討を続けていくものの、区外のどこにターゲットを置くかは難しいところと考えている。考え方としては、最終的に区外の方が板橋区に魅力を感じ板橋区産業に参画してもらうことをゴールと想定している。ですので、これから区産業と関わっていくことが見込まれるエリアの方々をターゲットとしていくことも想定している。

（委員）

同じ対象にパネルデータのように取得していくことで、定点観測のような、経年変化をみることができるのではとも思うので検討していただければ。

（事務局）

すべての方を対象する標本調査のようなデータと、産業振興政策の成果をどうとるか、事業を受けた方を取る方法とある。①この取り組みイノベーション創出のコミュニティや相談を受ける窓口の統計をとる、政策を利用してもらう方々からとるデータの双方が必要ととらえている。

（委員）

将来像「新たな発見に出会えるブランド創造都市」としているとのこと。指標は基本定量的にやるもの。指標をどれにするかが問題。

「今ないものは何か」を追及すれば指標が見えるのでは。柱1「産業基盤の強化」としているということは基盤が弱体化しているということ、なぜ基盤が弱いのかを考え、本質的な課題を見出して解決することができれば指標とし、定量化しやすいのでは。指標は定量化すべきと考える。

（事務局）

次期産業振興構想の策定にあたっては、本会議のもとに、事業者を中心とした検討会を実施している。建設・製造業検討会の事業者意見として、横のつながり、事業者間連携ができていない点が挙げられた。

（委員）

横のつながりがない原因はなにかを追及すべきでは。

（事務局）

掘り下げている部分が見えにくいかと思う。

個社の弱みを連携することで強化していく。掘り下げていることが表現できていないかと思う。

（委員）

パットみたところ、板橋区ならではの指標となっていないのでは。他区に置き換えることができるので、板橋区の産業の実態・特徴がだせるとよいかと思う。

横の連携の話があるなか、工業の集積度を図るということは面積あたりの工業事業者数となる。工業の活性化状態を測るには、区内事業者の契約、区外大手からくる下請け傾向が強いなど板橋区の産業の構造がみえてくるのでは。

集積を増やすというより、連携促進を促す取り組みが必要となるなど、数が少ないということであれば事業承継を含めいかに事業所数を維持する施策をするか。

産業界の意見も聞きながら盛り込めるとよいのでは。

（委員）

次期産業振興構想については本日初めて議論に加わったので、わかったようなわからないような感覚。感想として、定性的なものと定量的にすべきものがあるかと思うがイメージがばらついている印象。

（委員）

次期産業振興構想は、実現できれば素晴らしいものと思うが、板橋区農家にそこまでの体力はなかなかないかと思う。板橋農業にとっては何をもって成果と言うべきか現時点で整理できていない。

（事務局）

成果指標として、現行のものがアウトプット指標で分かりやすくはなっているものの本当に「成果」なのか、疑問と思っている。今後どう表現していくか、一案を示させていただいた。

具体的な指標の取り方までを現時点で示すことができていないので、分かりにくくなっているかと思う。この先、具体的な検討をしていく。

事業を実施するからには、それが企業の価値向上にどれだけつながったかを図りながら、指標を設定したいと考えてきた。

本日は、成果の指標の出し方の方向性、考え方についてご意見いただいたり、理解していただければありがたい。

（委員）

以前から本会議に参加していて、事務局の考え方を見ていて、この全部の指標をだせるかというとな難しいとは思いますが、これでよかったと思うものは必ず出てくると期待している。

現行の計画は、そもそもコロナの時には計画どおりにはできなかった。今後は違う形

での評価の仕方が出てくると思う。

現時点で事務局から示されているものは、曖昧な点もあるかもしれないが、これまでと違う動き、変化は感じている。

（事務局）

変えようとしていることを理解していただきつつ、区の次期基本計画との調整もあるので、今後も調整していく。企業が時代の変化に応じて経営を見直しどんどん変化していつている。支援する行政も変化にチャレンジしていく心づもり。指標については今後具体化していくので、改めてその際にアドバイスいただきたい。

●議題（３）意見交換（自己紹介含め）

▷委員からの質問・意見

（委員）

学生が板橋区の産業や事業に関わりながら、若い力が区の様々な事業に役立てればと考え取り組んでいる。最近の板橋の産業振興は若い人と企業の結びつきや、企業間の関係構築などの動きが活性化して見える。今後ブラッシュアップし成果につなげていけたら有意義と感じている。

（委員）

企業同士の横の連携については、東京商工会議所でも課題と捉えている。産業振興公社の産業データベースは経済団体として共に連携して活用できればより良いのではと考える。

（委員）

次期産業振興構想の内容は初めて確認しており、なかなか頭に入ってこない。人手不足が直面する大きな課題となっており、採用にあたって給与をある程度高くせざるを得ず、定着にあたっては昇給が必須となると、価格転嫁ができるかがすべて。色々な形で区内産業について勉強しつつ、横の連携をつくっていただけるとありがたいと考えている。

（委員）

大学で産学連携を推進しているので、地元板橋区内企業とも様々な連携をしていきたい。自治体の産業計画策定に関しては様々な関与をしてきた。そのうえで今回の板橋区産業振興構想について、成果指標をかなり変えてきたのはかなり画期的と感じた。これがうまく運用できれば行政の在り方に一石を投じるのでは。

（委員）

板橋農業は住宅地の中で農業を行っており、その難しさも感じている。区内農家は個々で考え方が異なり、農家継続の意向も様々であきらめムードの世代もある。板橋区農家への応援があると、もう少し頑張れるかと思う。

（委員）

信用金庫で起業塾を実施していくので区と連携していきたい。事業承継は、実際社長が持つ人脈や能力など頭の中のものをどう言語化して次につなげるかが必要。区と信用金庫連携のもと、つなげていくことを考えていきたい。第 8 期もより良い板橋区に協力していきたい。

（委員）

板橋に住んでいるが勤務地が板橋ではないので、あまり板橋区のことを知らない。今回、農業や工業専用地域があることもはじめて知った。今後、板橋区のことを知っていきたい。区が色々と考えていることがよくわかった。事業者や区民にも知ってもらいたいと思う。

（委員）

定年退職してから、実家の埼玉で畑作業をしている。たくさんとれた野菜は板橋区の朝市にも出している。作り立ての野菜は鮮度もありおいしい。板橋区がより良くなるよう役立っていきたい。

（事務局）

板橋農業の歴史、価値、すばらしさを感じる。板橋区内の企業の社長の人となり、様々な困難を乗り越え変化し続ける努力、素晴らしい魅力がたくさんある。しっかりと支援していきたい。

会議の内容は、以上のとおりである。